1.21　四猿

今日は、ちょっとＨな話。

日光東照宮に行かれた方は､名工左甚五郎の作ったと伝えられる眠り猫の他に｢見ざる、聞かざる、言わざる」の三猿をご覧になったことがあると思います。

昔、私がこの前で聞かされたガイドさんの解説は、｢子供のうちは、悪いことを見たり、聞いたり､言ったりしてはいけません｣という教えを表したものですというものでした。

私には、悪い癖があって、こういう真面目な解説を聞くと、それおかしいんじゃないのと思ってしまうのですが、このときもそうでした。
子供のうちから、悪いことは悪いこと、と教える方がいいんじゃないのかなぁ、って。
そもそも、見たり、聞いたり、言ったりするのはダメで、悪いことを「する」のはどうしてダメじゃないの？
我ながら、ときどきこの性格治らないかなぁと思うときがありますね。

さて、その時に思った疑問、その後、いろんな解説を読んだけれども、解けずじまい。
でも、あるとき、偶然、不真面目な解説に出会ったんですね。

曰く。
これは、昔の庚申信仰とも言うべきもので、庚申の夜、人間の身体の中にいると信じられている三尸虫(さんしちゅう)が、その人が寝ている間に身体からぬけだして、その人が行った悪事を神様に密告すると考えられていたため、一晩中謹慎して眠らずに起きていて、これを防止しなければ、命が短くなったり、死んじゃったりすると考えられていました。
その間、悪いことを見たり、聞いたり、言ったりしたらダメで、もちろん、悪いことをするのもダメ。

な～るほど。ふむふむ。

じゃあ、どうして四猿じゃなくて三猿なの？

実は、これは、四猿が正しいのだそうです。
ただ、四猿にするのは、ちょっと問題があって……。

どんな？

あのー、四つ目の「する」というのは、「ナニをする」ということなんだそうです。
さすがに、東照宮さんでは、ちょっと省かざるを得ませんよね。

四匹目の猿はどういう格好をしているかって？
えー、これもなかなか言いにくいのですが、四匹目は、自分のあそこを手で押さえています。写真参考

しかし、まあ何もしないで一晩中起きているのは誰でも退屈ですから、どうしても人は禁を破ってナニをしてしまいます。

ところが、禁を破った報いとして、生まれてきた子供は、泥棒になってしまうというのですね。
いやはや、これは大変！

でも大丈夫。庚申信仰は、道教の教えらしいのですが、道教というのはなかなか現実的で、もし、子供が庚申の日に仕込まれたと思う場合は、子供の名前に「金」という文字を入れておけば、大丈夫としていたんだそうです。

なぁ～んだ、これじゃあ、誰も守らないですよね。

でも、昔の人は真剣だったから、「金太郎」「金四郎」「金五郎」「金八」なんて名前を付けていました。
ン？　金八？　どこかで聞いたことのあるような。

ちなみに、夏目漱石の本名は、夏目金之助というの、知ってました？

庚申は　せざるを入れて　四猿なり

今の世に生まれてよかったなあと思いませんか、金八先生！

この不埒な説を信じるかどうかは、お読みになった方がご自分で判断ください。

ホントは、これ、論語の「礼にあらざるもの視るなかれ、聴くなかれ、言うなかれ、行うことなかれ」からのものなんですがね。

あ、そうそう、三尸虫(さんしちゅう)は、誰のお腹の中にもいる三匹の虫で、ときどき、虫の居所が悪くなったり、腹減ったと鳴いたり、腹の虫が治まらないことがありますが、あの虫のことです。

ちなみに今日は、初庚申の日。
禁を破りたくても、この歳ではもう相手にもしてくれません。とほほ。

2.13　受験生ブルースと狸

皆さんの中には、昔「受験生ブルース」という歌を聴いたことがある方がおられると思います。

♪　おいでみなさん　聞いてくれ　僕は悲しい　受験生
　　砂をかむような　あじけない　僕の話を　聞いとくれ

で始まるこの曲は、高石友也さんが受験生の生活を歌って大ヒットした曲。
昨日、あるところで久しぶりにこの歌を聴く機会がありました。懐かしかったですねぇ。

♪　夜は悲しや　受験生　テレビもたまには　見たいもの
　　深夜映画も　がまんして ラジオ講座を　聞いてるよ

これはその 4 番の歌詞。ここに出てくる「ラジオ講座」は、旺文社がやっていた「大学受験ラジオ講座」。
私も毎日聞いていました。放送前に、ブラームスの「大学祝典序曲」が流れるのですが、あれから半世紀近くが経っているのに、鮮明に思いだすのはどうしてでしょうね。
今思いだしても、よく勉強しましたね。何も考えず、よく続けられたと思います。

しかし、苦労して入った大学の講義は、私には余り面白くは感じられませんでした。
それより、新しくできた友人達との付き合いは、私の前に今まで知らなかった沢山の新しい世界を広げてくれ、その楽しさにのめり込んでいった毎日でした。

その中の一つに、聖歌の研究会というのがあって、半年ほど聖歌を聴き、その意味などを勉強していたのですが、なにしろ 700 番以上ある聖歌ですから、みんなと一緒のペースでは、とても全部を聴くこともできない。
そこで私、大学の図書館にあった視聴覚センターで、片っ端から聖歌を聴いて、詞をノートに写したのですね。

聖歌というと、私たちの普段の生活からは縁遠いように思われがちなのですが、これは大きな間違いで、私たちの数世代前の人たちは、沢山の聖歌をかなり上手に訳して、歌っていて、キリスト教とは無縁だった私ですら聞いたことがある曲が結構ありました。
あ、これ聖歌だったのか、あれっ、これも聖歌？
という感じです。
その中で、私が一番びっくりした、いささか不謹慎なもの。

♪　たんたん狸の　金の鈴（ここは○○○○というところもあり）
　　風もないのに　ぶ～らぶら
　　そ～れをみていた　子ダヌキも
　　親のまねして　ぶ～らぶら

これは、わが国全国各地で歌われている（た？）「たんたん狸の歌」。

いや、私のところは、歌詞が違う！
というほど、バリエーションがあるようですが、「狸」と「金〇〇」は必ず出てきますよね。

これね、私、当時、図書館で聖歌を聴いているときに発見したのですよ！
何を？

えー、これ、元は聖歌なんですね。
聖歌の 687 番。
聴いたときはびっくりしましたねぇ。
しばらく、これ、間違って入ったんじゃないかと思いましたから。

ちなみに、歌詞と曲名は
「Shall We Gather At The River」
1 番
　Shall we gather at the river,
　Where bright angel feet have trod,
　With its crystal tide forever
　Flowing by the throne of God?
　※Yes, we'll gather at the river,
　The beautiful, the beautiful river;
　Gather with the saints at the river
　That flows by the throne of God.

訳詞（私の訳ではありません）
　まもなく彼方(かなた)の流れのそばで
　楽しく会いましょう　また友達と
　神さまのそばの
　きれいなきれいな川で
　みんなで集まる日の
　ああ　なつかしや

ところでね、いったい誰なんでしょうねぇ。
タンタン狸の歌詞を付けた不埒で、大胆な、愛すべき奴は？
きっと、今頃は地獄かなぁ？

この聖歌、You Tube で聴くことができます。

2.14　アメージンググレイスと奴隷貿易

どうも、先日のタンタン狸の話（参照「受験生ブルースと狸」）は、目覚めが悪いのですね。
私まで地獄に堕とされてはちょっと具合が悪いので、今日は、ちゃんとした聖歌のお話をしておきたいと思います。

白い巨塔以来、或いは本田美奈子さん以来、「アメージング・グレイス」は、日本の誰もが知っている最も美しい歌の一つとなりました。

この歌の出だしの歌詞は、

♪ *Amazing grace! (how sweet the sound)*
That sav' d a wretch like me!
I once was lost, but now am found,
Was blind, but now I see.

Amazing grace は、「素晴らしい神の恵み」という意味ですが、
この曲は、聖歌の 229 番。
「おどろくばかりの」というタイトルがつけられています。

この曲の作詞は、1725 年生まれのイギリスのジョン・ニュートン。
彼は、ジェントルマンになりたくて、アフリカの黒人を奴隷として売り払う仕事に就き、巨万の富を手に入れるのですが、あるとき、乗っていた船が嵐に遭遇し、危うく遭難しかかるのです。
彼は、神に祈り、それまでの行いを悔い、九死に一生を得るのですが、彼はその後船を下りて、自分の生き方を変え、牧師になり、そして作詞した曲が、この聖歌 229 番。

曲の 2 行目、「That sav'd a wretch like me!　(私のような wretch でさえ救いたもう)」の「wretch」は、哀れな人間という意味の他に、「恥知らずの卑劣な人間」のことも意味しています。自分は一度死に、生まれ変わり、今は生きている意味が見えている、こういう歌詞を読むと、ニュートンの心が理解できるような気がします。

ところで、この頃のイギリス社会は、ごく少数の貴族（200 家程度）の下に、ジェントルマンという支配階級（2 万家程度、人口の約 5%）がいて、広大な土地を持つ大地主として実質的にイギリス社会を支配していました（川北「イギリス近代史講義」）。

産業革命で生まれた工場主などは、決してジェントルマン階級にはなれなかった一方で、弁護士、内科医、高級官僚、高級将校、そして巨額の富を持つ貿易商などは、準ジェントルマン階級とされていたのです。

そこで、若くて、野望を持つ中流・下流に属する青年達は、その能力に応じて、準ジェントルマンになることを目指すのですが、このジョン・ニュートンもまた、奴隷貿易で巨万の富を稼いで、準ジェントルマンになろうとしていたと思われます。

もう一人、この準ジェントルマン階級を目指した典型的人物として有名なのが、ロビンソン・クルーソー。
知ってますよね。

子供の頃、かなりの方々が「ロビンソン・クルーソー漂流記」を読んだ経験をお持ちではないかと思いますが、おそらくは子供向けの本だったでしょうから、無人島で生活するロビンソン・クルーソーのことは知っていても、ロビンソンがどういう人物かは余り知られていないと思います。

原作を読みますと、彼は、中流階級の出身で、その境遇に飽きたらず、ジェントルマンを目指して、奴隷貿易で一旗揚げようとしたのです。
その結果が漂流して無人島。

ご存じでした？

このアメージング・グレイスは、この後、アメリカに連れてこられた黒人奴隷の間に浸透し、彼らの心の拠り所となります。

奴隷商人だったニュートンのことを考えれば、私のような不信心者にも、この曲の深さを感じることができそうに思えます。

2.16　神様、仏さま

神様、仏さま、お願いですぅ～。
何とかしてくださぁ～い。

今年は、スタートから災難続き。
雪国でもないのに、雪かきで腰を痛めて、長い間ヒィコラいって、やっと治ったと思ったら、今度は、思いもかけず、USB メモリがクラッシュ！
書きかけの原稿 600 枚と新春からの講義録 7 回分が全部パア、ひどいです。
ひどすぎます！

それにしても USB メモリがクラッシュするなんてことあるんですねぇ。
HDD は時々あるからしょっちゅうコピーしてたのに。
災害は、思ってもみないところで起こるんですねぇ。痛感しました。

仕方ない。
あっちこっちに電話掛けまくって、やっとたどり着いたのが、データの復旧をしてもらえるサルベージ会社。
あるんですね。こんな会社。
もっぱら、企業や大学からの依頼が多いそうですよ。
さて、とにかく持ち込んだのは良いけれど、なんと費用見積もりが 21 万円。
えっー、と思いません？
こんなちっぽけな数千円のメモリの復旧が？

まあ、仕方ないです、
悪いのは自分です。
作業中のデータは、持ち歩くので、つい、USB にしか記憶させてなかったのが敗因。
これじゃあ、最新鋭の PC 買えるのに、と思いながら頼みました。

結果？
ジャーン！　見事に救出失敗。
私の数ヶ月間の努力は、野辺の煙となり果てました。
ただ、費用は、成功報酬方式だったのでかかりませんでしたけれど。
ということで、このところ、私の毎日は、消え果てたものを紡ぎ直す灰色一色です。
トホホ、です。

ところでね、私、絶望の中で、ふと思ったんですけどね、
神様、仏様、って言うとき、
仏様はわかるんですけど、神様は、どの神様なんですかね。

日本には、実に沢山の神様がおられますから。
神様はどうも具体性に欠けますねぇ。

私が理解するに、私どもの周りにおられる神様には、ざっと 3 つのグループがあるようで、

第 1 は、天照大神を筆頭とするグループ。
高天原から降りてきて、いまだに神様の世界の長期政権。
厳しい序列があることで知られていますね。
これは、まあ、どう転んでも私たち庶民の願いなどは関心の外にあるようで、いくら頼んでも聞いてくれそうにはありませんから、除外するしかないですねぇ。

第 2 は、私たちの遠い遠いご先祖様達が自分たちの守り神として祀った神様たちのグループですね。
やおよろず（八百万）の神々と言いますから、もともと自分たちの心の中にいる祖先達の魂ですね。氏神様とも鎮守様とも言いますね。
そのなかでも筆頭は、大国主命さん。
序列がなくて、みんな勝手にやってますが、私たちが困り果てて真剣に頼むと、意外に聞いてくれるとの噂です。

第 3 は、その他のグループ。たいていは、利益がらみの神様が多いようですね。
日本では、ご利益があるのなら、外国の神様でも、動物でも、偉い人でも、誰でもいいんです。心の狭いアラブさんたちと違ってね。
昔は､自分が祟られないように､恨みをのんで亡くなった人まで神様にしましたからね。
ただね、このグループは、能力に限りがあって、自分の得意分野しか聞いてくれないようですから、専門外の頼みは門前払い。
よく調べてから、頼みましょう。

ところで、さすがに、ＰＣの神様はまだ日本にはいないようなので、私、第 2 のグループに頼んだつもりだったのだけれど、聞いてくれませんでしたねぇ。

え、今年の初詣にいくらお賽銭あげたかって？
えーっと、5 円だったかな。

う～ん、考えてみれば、今どき、5 円じゃ、保育園の子供でも、鼻も引っかけないか。

ま、わかってるんです、そのくらい。
でも、滅多にカミサマッーて言わないから、聞いてくれてもいいんじゃないかと思ったんですけどねぇ。

2.23　空海さんのワープ

弘法大師空海さんが四国霊場 88 箇所を開基したことは、どなたもご存知のことと思います。

四国だけではなく、弘法大師さんが開基したとされる霊場は全国各地にあって、実は、私が数年前まで住んでいた東北にも弘法大師さんが開基したと伝えられているところがかなりあるのですね。

有名なところで、湯殿山、山伏信仰の山ですね。その湯殿山の本道寺と大日寺(今の湯殿山神社)。それに月山信仰につながる注連寺、宮城岩沼の弘法大師堂等々。

弘法大師さんが持っていた錫杖でトンと大地を突くと、泉が湧き出したなどという伝説に至っては、えっ、こんなところまでと思うほど、ホントに多いのですね。

でもね、各地の霊場が、私んちも弘法大師さん、俺んとこも弘法大師さん、めいめい主張されるのは、勝手だけれど、資料を見ると、相当おかしなものがあるんですよ。

公式資料によると、
空海さん、唐から帰国したのは大同元年(806 年)、しばらく太宰府と郷里讃岐にいて、京に戻ったのは 3 年後の大同 4 年(809 年)というのが公式な記録。
他方で、東北の湯殿山の開基は、なんと大同 4 年(809 年)とされている。

う～～ん。ワープでもしない限り、同じ年に京と山形に現れることは難しいと思いますね。
もっとも、夢枕獏さんの小説「沙門空海唐の国にて鬼と宴す」を読むと、空海さんだとワープくらい造作もなかったかも知れないんですけど。

空海さん、唐から京に戻ったあともすごく忙しい。

四国 88 カ所の開基もしなければならないし、高野山も整備しなけりゃいけない。
日本の既存の宗教と調整して密教を確立しなきゃあいけないし、「いろは」も作らないといけない。
さらには、唐から持って帰った最新の医術、薬学、工学、冶金技術も、弟子達に教え広

めなければならないし、現場で使って試さなければならない。

いくら空海さんがすごいと言っても、スーパーマンじゃないんだから、これだけのことをしながら、日本を縦断して東北まで行くことは、大同年間に限らなくてもやっぱりちょっと無理じゃないかと私は思うんですよ。新幹線もまだ開通してないしね。

それにね、東北地方は、空海さんが帰国した年の１年前に、やっと坂上田村麻呂さんが武力征圧したばかりですから、まだまだ不穏な空気に包まれていて、そんなに安全じゃあなかったのですよ。
行くとしても、業務出張なんかじゃなくて、命がけのお仕事なんですね。

じゃあ、どうして、この時代に、東北にも、弘法大師さんの足跡や伝説が沢山存在するのか？

ここで、またまた、私の得意とする勝手な推察（もとい、妄想）。

私、征圧したばかりの東北地方に、弘法大師さんの足跡が沢山あるのは、
時の大和朝廷によって、征服地に対する一種の宣撫工作が展開されたんじゃないかなと思うんです。

征圧して間もない地の不安定な人心を、真から朝廷に帰属させようと思うと、二つの手段が有効です。

一つは、圧倒的な武力と神威で、「抵抗は無駄だ」と思わせること。

坂上田村麻呂さんは、武力征圧と同時に、「おまえのとこの神様」より「うちの方の神様」の方が格上なんじゃということを示す「尚武」の立派な神社をたくさん造ってますよね。

もう一つは、前の支配者より、今度の支配者の方が「いいみたい」と思わせること。

これは、古代ローマが、征服した土地で収奪を行わず、ローマとの同化を図って、征服地全体にローマの豊かさを享受できるよう、努めたのと同じです。これだと反乱を起こす必要がなくなりますからね。　　塩野七生「ローマ人の物語」

水のないところに井戸を掘り、道路を造り、橋を架け、
死にかかっている病人を直し、良く効く薬を与え、
民の暮らしを飛躍的に向上させる。
大和朝廷の施政のすばらしさを日々の生活で実感させると同時に、
真言仏教の教えを普及する。

朝廷のこんな政策の実行者として、弘法大師さんの高野山からこうした最新技術を持ったテクノクラートのグループが幾つも地方に派遣されたと考えるのは、荒唐無稽でしょうか？

まあ、証拠もないことですし、学者じゃないんですから、たまには空想の世界に遊ぶのもいいんじゃないでしょうか？

2.24　弘法大師さんの財源

空海さんは、唐から帰国後、人間とは思えないほど精力的に活動しています。

真言密教の本拠地高野山の整備、東寺の創建、四国 88 カ所霊場の整備
満濃池の大改修、わが国の文化、医学、薬学、工学等の発展、普及、確立

ところで、これらの仕事をしようと思えば、莫大な費用が必要とならないでしょうか？

満濃池の大改修は、農業生産力を飛躍的に向上させる潅漑事業のために欠かすことのできない水源を確保するためのものですが、空海さんは、これを最新工学によるアーチ式ダムで完成させます。
この事業は、空海さんが関与した初期の段階の代表的事業であることでもあり、天皇勅許の直轄事業として行われていますが、これに続く膨大な四国の農業ダム群の整備は、国の事業で行われたわけではありません。

また、それまでの奈良や京都のお寺が官立だったのに対して、真言密教の総本山、あの高野山の開基事業は、官立寺院ではなく、空海さんの私立寺院として行われています。
つまり、自費。
今で言うと、高野山は、私立総合大学だったのですね。

もちろん、若い頃に修行した四国霊場の整備もまた、空海さんの指示で行われたと思われますが、これもまた地方私立大学として官費とは無縁でした。

これら空海さんが関わった事業に要した費用は、今のお金に直すと、少なく見積もっても数兆円に上ると思われます。

ところで、これだけの金をどうやって空海さんは調達したのか？
私には、そのことが非常に不思議でした。

お遍路の旅で、つぎつぎと 88 箇所霊場にお参りするうちに、その中には、機械がない時代にこんな山の上に資材を運ぶだけでも、どれだけの労働力が必要だったか想像もつかないようなところが何カ所もありました。
その人達が全部地元のボランティアだとはどうしても思えない。資材費用も含めると、一箇所だけで数百億のカネが掛かってもちっともおかしくないと思えたのです。

このような費用を調達したことだけ見ても、空海さんは希代の経営者だったと思うのです。

さて、ここからは、私の妄想。

空海さんの資金源は、ひょっとしたら鉱山から掘り出した鉱物資源なのではないか？

ご存じの方もおられると思いますが、高野山のある場所は、伊勢から紀ノ川を経て吉野川、さらには海を越えて豊後にいたる日本の「中央構造線」の上に位置しています。

中央構造線

中央構造線に沿った地域では、昔から、金、銅、水銀などが採れるところが多いのですが、特に、高野山には、わが国屈指の水銀の鉱脈があったことが知られています。
水銀は、今でこそ危険なものという認識があるのですが、当時は、不老長生の薬であり、仏像を金メッキするには欠かせないものであり、防腐剤として建物に塗られていました。

少しだけ専門的になりますが、高野山には「丹生川(にうがわ)」という名の川が流れています。「丹生」は、「丹」が採れると言う意味ですが、この「丹」は、朱砂（辰砂）のことを指しており、これから、「朱」と「水銀」が作られていました。
古代から赤は、呪力、霊力があるものとされていましたから、今でも神社の柱が朱色なのはこのためです。

青丹(あおに)よし　奈良の都は　咲く花の　薫(にお)うがごとく　いま盛りなり
は、緑と朱に輝く平城京の美しさを歌ったものとして有名ですね。

空海さんは、当時の最高の鉱物学者でしたから、誰よりも早く、その存在に着目し、これを掘り出し、莫大な事業費に充てたと考えられないでしょうか。
「朱」は「金」と同じ価値でしたから。

ちなみに、最近の地質学者の話によると、四国の 88 霊場の多くは、銅と水銀の鉱脈の分布に沿って存在しているようです。

弘法大師さんが右手に持っている「錫杖」には、金属の「輪」が付いていますが、これで大地を叩くと、手に伝わる振動で、練達した地質の専門家や鉱山師には鉱脈の存在やその種類がわかるそうです。下の写真は、四国八十八カ所第五番札所「地蔵寺」の御大師様。

空海さんが、若い頃、四国各地を実際に踏査して歩き、それを基に、帰国後、各地で銅や朱を掘り出させ、次々と私立四国高野山大学を設立していったという私の妄想は、遍路をしていて疲れ果てて、宿で寝転んでいたときに頭に浮かびました。
疲れていたときの妄想としては、なかなか面白いと思いませんか？

さて、最後に蛇足。
空海さんは、唐で、密教の最高指導者恵果上人から、ただ一人の密教承継者としての「**阿闍梨**」の地位と大日如来の密号「**遍照金剛**」の名前を授かるのですが、これがお遍路さんが唱える「南無大師遍照金剛」であり、四国 88 カ所を巡礼して歩く方を「お遍路」と呼ぶ理由なのです。

5.12　住吉大社 1800 年大祭

数日前のことですが、雑用があって慌ただしく大阪を往復したときのことです。
大阪南部に堺市という最近政令市になったところがあり、そこで 1 時間ほどお話をしたのです。
そのこと自体は特段のこともないのですが、その帰り、たまたま来た電車（南海電車）に乗り込んだところ、それが幸か不幸か各駅停車。
これが、終点難波駅まで意外に途中駅が多いんですね。
ボーっと、ドアの上に書かれている停車駅を見ていると、面白い駅名がいろいろありました。
天下茶屋駅、粉浜駅、住吉大社駅、住之江駅。
ん！　住之江？

住之江の　岸による波　よるさえや　夢の通い路　人目よくらむ　（古今　恋）
のあの住之江？

降りることにしました。

ところが、行き当たりばったりの行動では、やはり得るもの少なく、駅員さんに聞くと、次の住吉大社駅が良いとのことで、再び乗車。

駅を降りるとすぐ、東側 100 ㍍ほどのところにチンチン電車の通る道があって、それを越えると堂々たる住吉大社の鳥居。
お参りをすることにしました。

太鼓橋を渡って、すぐのところに、国宝の第三本宮、第四本宮が並び、その後ろにやはり国宝の第二本宮、その奥に第一本宮。

順に、お参りをしていくと、最後の第一本宮の当たりが何かざわざわしている。

神式の結婚式の時に、座る折りたたみ式の椅子？が並べてあったり、賽銭箱が横にずら

されていて、白い布があちこちにかけてあって、神官達が忙しそうにウロチョロしている。

声をかけそびれていると、警備員さんが通りかかったので、

あのー、なんかあるんですかぁ？
あ、これか、タイサイの練習や。
タイサイ？
そや、タイサイや。
タイサイって？
そやから、タイサイや。
アカン、ワカラン。

そこへ通りかかったのが、地元のオジさん。

これな、住吉っさん（スミヨッサンと発音します。なんだかどこかのオッサンみたいです）の 1800 年のお祭りや。今年な、住吉っさんがでけてから 1800 年なんやて。100 年に一度の大祭なんや。
あ、大祭　ね。
なんでも、西暦 211 年、神功皇后さまが、住吉っさんを創建したと日本書紀に書いてあるそうです。

これからな、巫女さんらのカグラの練習あるって言ってはりましたで。
へぇー、これから？
4 時からやって。

巫女さん！　赤白の。
いいですねぇ。
あと 30 分。時間をつぶすことにしました。

その間、境内の末社めぐりをしていたら、初辰さんの幟があちこちに。
近くのお稲荷さんに人がいたので聞くと、毎月初めの辰の日にお参りすると、商売繁盛・家内安全、間違い無しとのこと。
早速、お参りして、猫のお守りを買って、戻ってきたら、いた、いた。
赤い袴に白い着物姿の若い巫女さんが 10 人くらい、それに緑の袴をはいたオバさん巫女？。

始まりました。
神楽舞のようです。
なかなか緑のオバさん、厳しい指導。

巫女さんも楽じゃあないんですね。

巫女さんの舞は、「白拍子」というものだったようです。

ところで、下の写真は、初辰（はったつ）さんで買った猫のお守り。
でも、私には、どうしても、狐にしか見えないのだけれど。
袋を見ると、このお守り、買ったところが楠珺社（なんくんしゃ）といって、樹齢千年を超える楠木の下に作られた稲荷神社。
なーるほど、だから、なんとなく、お狐さんに似てるんですね。
でも、ちゃんと、右手と左手を上げて手招きしているので、やっぱり猫なんでしょうね。